

余白の風

求道詩歌で南無アツバ
二〇一〇年八月発行
第一七六号
毎月一回二〇日発行

井上洋治神父の提唱する、日本人のキリスト信仰を生き抜くための

井上洋治神父のうた

救急車のさいれん

右に左にそそり立つ／高層ビルのコンクリートの壁／そのコンクリート砂漠の大都会の真中にある／猫のひたいほどの／小さな 小さな緑の空地／それでも／この小さな空地で／風とたわむれている いちようのけやき／重い、だるいからだをかかえて／ぼくは 今朝も／アツバのおはからいに感謝しながら／いつときの静けさをおはからいに感謝しながら／と／全く突然に／まさに／あじわっていた／と／全くと／まさにつんざくような救急車のサイレンがきこえてきた／あつというまに／現実にはひきもどされたぼくは／我が身を振り返り／思わず アツバに／感謝の祈りを捧げた／でも そのあと／ふつと気づいて／車中の人に思いをはせ／あわてて／ぼくは つげくわえた／アツバ 車中の人もよろしくお願ひしますね／／窓外の空地の木々たちも／何だか笑いながら／一緒に／南無アツバ」と、となえてくれているみたいだった／アツバ 南無アツバ

二〇〇九年二月のある朝

* 風」8号巻頭詩。井上神父の詩に 無技巧の技巧」とでもいうべき魅力を感じるの、私だけであろうか。コンクリート砂漠」のなかの、風や草木、自分、隣人をストリートに歌って何の技巧もない。だが、人工物の中で 風とたわむれる」自然、その脇で生身の だるいからだをかかえた」自分、それを アツバのおはからい」と 感謝」する、という、汎在神論的信仰の具体が示されている。

しかし間髪いれず 救急車」で運ばれる 車中の人

へのとりなしの祈りを忘れない—— 共に」という悲愛の具体がある。そこに無理や背伸びや理屈はない。どこまでも正直でストリート。そして結句は、そうした自分や隣人を、笑いながら」包み込んで、「一緒に南無アツバ」と、となえてくれる」空地の木々」に視点が戻る、そこにキリストをみるように。

会員作品とエッセイ（*主宰寸感）

父は生誕二〇〇余年

稲城市 石川れい子

南無南無アツバ 南無アツバ

能登の農家の次男坊、中学合格叱られて、勘当されて他家の子に。昼間手伝い、夜は夜具の、中で勉強夢捨てず、お国のためと憧れの海軍士官へまっしぐら。首席で通し卒業に、恩賜の短剣賜はれり。

国敗れて山河あり。戦後は公職追放で、物物交換、畑づくり、南瓜と芋で食いつなぎ、やうやく造船技師として、ドックで働く二十年。老ひても勉強怠らず、特許庁の翻訳を、続ける父の背中かな。

神の計画愛深く、息子娘をミッションの学校に入れしが信仰の、恵みいただく縁となる。月日は流れ、病得て、神の学びを病院で、遂に受洗のお恵みを、還暦の頃賜はれり。

八十歳でこれまでの、自分史まとめ遺言書献体手続済ませ後、八十七歳で帰天せり。

献体の父見送りて茄子の花

炎天下被爆の聖母マリア像

*人の一生の不思議、人の死が残すもの……アツバのなさる御業は計り知れない。

風の家まで風に押されて薄紅葉

花ひひらぎほんとはさびし神様も

磔刑の御身やはらにかげろへり

*第四句集 『鬪狩』より。第一句には 井上洋治神父

文京区 大木孝子

豊田市 佐藤淡丘

木下閣ころがり出づるものはなし

神ぞ知るたった一羽の帰燕かな

大和市 佐藤悦子

天青くヒマワリの花咲く如し娘の霊名はフランシスカなり

オオカミも小鳥もそばにやってくるフランシスコの太陽の讃歌

以前、日本で一番人気がある聖人は、アッシジのフランシスコと聞いたことがあります。日本人の自然観や心情とフランシスコの霊性は、通い合うものが多いのでしようか。そこで久しぶりに 古都アッシジの聖フランシスコ」講談社」の写真集を開いてみました。

小さな貧者である吟遊詩人 フランシスコに就いて聖書の言葉は、そのままの実感でした。自然を自分の見方で詩にしましたから、素朴な人々に影響を与えました。後世のアッシジの信心詣りは、そこへ行って自然を賛美するということでもありました」 文・小川国夫

*私事ですが、わたしの霊名もアッシジのフランシスコ。ちなみに妻はクララ。

語りかき空蟬の背割れてあし

様」と前書き。各句のなかにはととさせる発見がある。

名古屋 片岡惇子

神の内芙蓉咲きては散り行きぬ

伝え切れぬ寂しきありて西瓜割る

蜘蛛の網に何か残して落ちて行く

* 伝え切れぬ」何か」はきつとアツバ 神の内」

にあり、何でもご存知です。信頼しましょう。

そもそも日常は報われぬことの繰り返し」だと、その昔先輩から教えられたことを、ふと思い出しました。早朝の丘での祈り。日々施設での掃除夫としての祈り。はたまた、家庭祭壇での祈り。これらが何らかの成果を求めている祈りだったらどうでしょう。きつと不満しか生じないことでしょうか。

交換取引でない祈り、即ち、恵みは恵まれる方が恵みたいときに与えて下さる。ただ、それだけのことと思おうように、やっとなりました。今日も消夏法の一つ「南無アツバ」を三回唱えました。

* 報い」ということのレベルや範囲を、小さな自我をこえて、アツバにお任せしたいものです。

京都市 瀧野悦子

白日傘クルクル六十路南無アツバ

TシャツにLOVEの一字南無アツバ

ころころと笑ふシスター南無アツバ

お仲間に入れていただけうれしく存じます。気負いなく素直な句詩歌……皆様から祈りの優しい風をもらいました。とにかく出句を、いやーのびく作句出来て楽しいです。いつもなら推敲を重ね、主宰の言われている点に注意して、類句に気をつけアレコレ……なのですが、神様との語らいを句に出来るなんて楽しいです。

*アツバのふところでの のびく作句」この姿勢も求道詩歌の特徴ですね。

立川市 新堀邦司

飛梅も葉陰に青き実を結び 大宰府天満宮

幾千の絵馬を鳴らして青嵐

玄海の幸を着や冷し酒

* 日矢」8月号より。同誌連載、氏の「大物歳時記」が楽しみ。御祖父・愛月様の「老梅は支へ柱にもたれ咲く」が心に沁みる。

一宮市 西川瑠子
漆黒の闇にほたるの乱舞して

戦争は嫌です清流螢川

魂鎮まる長篠の原ほたる飛ぶ

仏法僧で有名な鳳来寺山近くの湯谷温泉に行きました。近くには長篠の合戦跡があり、夜は螢狩りならぬ螢乱舞を心ゆくまで楽しみ速き日の情景が蘇ってきました。

* 学生時代ひとりで、リュック担いで南木曾から鳳来寺山まで、自然歩道を歩いたことを思い出します。

栗野市 長谷川末子

レンちゃん

二年になって背が伸びた／妹、弟やんちゃです／子育て母さん忙しい／時々大声聞こえます／日本生れの子供達／親の会話はベトナム語／学校好きのレンちゃんは／国語算数よく出きて／スポーツ給食共に好き／いつも身ぎれい髪束ね／一人一人が個性的／素早い行動目は澄んで／ふと恥しい私です。

丹沢の山を毎日眺めています。日毎に変わる姿に神の御技を感じます。

* 結句に思いがこもる。日本人が忘れたもの。学ぶべきが日常に溢れている。

蓮田市 平田栄一

何処にか大安心があるような夜がうきうきと更けにけるかも

ベルクソンの「持続」を思う夕間暮れ妻の作りし酢豚が匂う

高校倫理「キリスト教」授業録6

こうしたことをつまえて、以下、ぼくがこの話を、ちょっと大胆に意訳・敷衍・意味・趣旨などをこぼす付け加えて、くわしく説明すること)して現代的にアレンジしてみます。

もとの「マルコによる福音書」10章17(1節)の話と比べながら読んでみてください。

* ある金持ちの青年がイエスのもとに来て、真剣な面持ちで尋ねました。

——先生、どうか教えてください。ほんとうに人間らしく、生き生きと生きていくにはどうしたらいいのでしょうか。イエスは答えました。

——きみはすべきことを知っているじゃないか。青年はいぶかしげに言いました。

——先生、わたしは世間の常識をわきまえ、親の言いっけもすべて守ってきたつもりです。学問を怠らず、目上の人たちにも礼をつくしてきました。しかしなぜか……これでもいいのだろうか、これがほんとうの自分の生き方なのだろうか？と、ふと不安に思うことがあるのです。心からの安心感がないのです。イエスはそんな彼をじっと見つめ、心から同情し、そして言いました。

——きみの気持ちはわたしによくわかる。君は誠実で勤勉だし、心もやさしい。でもきみには一つだけ欠けていることがある。それは……

——えっ！ どんなことですか？ いままでわたしのどんな落ち度があるというのでしょうか？ どこかまちがいがあるのでしょうか？

——これから家にすぐ帰って、きみが親から受け継いでずっと大切にしてきた持ち物を全部売り払って、そのお金を貧しい人たちに分けてしまいなさい。そのとき、きみはほんとうに自由になるだろう。わたしについてくるとはそういうことなんだよ。(つづく)

後記・余白

* 会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

* 井上神父様その他の方から、前号についてコメントを頂きました。うれしく、楽しく読ませて頂きました。「い句が多くなつたね」といったお言葉です。会員が多くなってやむなく選句させていただいているところですが、こうした評判は励みになります。

* お願ひがあります。私信との区別、また誤植防止のためにもできるだけ投稿部分については原稿用紙をご使用ください。

* 原稿採否主筆一任 * 締切〓毎月末必書

* 年会費二千円(送料共)

* 郵便振替口座 〇〇一七〇一三二六〇九〇九 平田栄一

* 投稿先 メールでお問い合わせください。

* ブログ「南無アツバを生きたる」